

令和3年度 学校関係者評価書

学校名		北海道登別青嶺高等学校										
組織名		学校運営協議会										
評価者		次原勝秀 川島芳治 斎藤正史 藤江紀彦 田村忠士 田村 薫 田淵純勝 福井 誠 工藤保秋 中島英治 伊藤真美										
1 本年度の重点目標		(1) 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って主体的に学力を積み上げる生徒 (2) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒 (3) 自己理解を深め、自らの個性と適性に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒										
重点目標の適切さ	・学習指導、生徒指導、進路指導等において、生徒と教職員、教職員と保護者との関係が適切にバランス良く保たれており、良好な学校経営の成果であると思います。 ・適切に設定されていると思います。(これらの目標が学年や学級にどのような具体的な行動目標として落としこれているかが大雷とも思います。) ・昨年度も述べて頂きましたが、本重点目標は本校の目指す生徒像としての運営方針となる為、伝統的に持続する必要があると考えます。特に新しく単位制導入に伴う学校として選挙権を得る子たちに適切な目標でしょうか。											
2 自己評価結果		学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか評価を行う。 A(適切な評価である) B(ほぼ適切な評価である) C(やや不適切な評価である) D(不適切な評価である)										
評価項目・指標等		達成状況	改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ	今後の改善方策の適切さ							
大項目	中項目	小項目		A B C D	A B C D	A B C D	A B C D					
学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成	B	今後の本校の在り方について、次年度より新学習指導要領に切り替わるため、教育課程委員会を中心に教育課程の見直しを進めている。 朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を図り、家庭学習の定着へ働きかけている。 基礎基本を大切にする指導については先生方に浸透している。	8	3	0	0	7	2	0	0
		基礎・基本を大切にする指導	A		11	0	0	0	7	2	0	0
		家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進	C		6	5	0	0	5	5	0	0
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用	A		9	2	0	0	6	3	0	0
	授業改善	授業規律の確立	A	概ね整然と授業が行われているが、生徒自身が主体的に学ぶ意識の向上が課題であり、興味・関心を持つ教材・授業展開の工夫を図る。 次年度から始まる「じもと学」において、登別市、議会、商工会議所等と連携を図りながら進めている。 生徒用タブレットが導入され、様々な場面で活用されており、次年度の1年生から始まるBYODでもさらなる工夫が求められる。	8	3	0	0	7	1	0	0
		言語活動の充実や問題解決的な学習	C		6	4	0	0	5	4	0	0
		観点別評価など評価の工夫	B		6	5	0	0	4	4	0	0
		学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫	C		4	7	0	0	5	4	0	0
ICTの活用など学習指導の工夫	B	7	4	0	0	4	4	0	0			
評価者の意見等		・各項目について前期より評価ができると思われる。・各学年共に学習指導においては高い評価を得ている。 ・おとなしく黙って授業を受ける受け身の姿勢から、進んで学ぶ主体的な姿勢への転換が望まれます。 ・9項目中5項目の達成評価のランクがアップしたことは先生方の努力と感じます。本指導は学校運営における特に値する者であり、今後とも頑張ってください。										
生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進	B	携帯電話の預かりにより校内での子供たちのコミュニケーション力向上につながっている。しかし、未だにSNSでのトラブルが絶えないので、情報モラルの指導を徹底	7	4	0	0	8	1	0	0
		スマートフォン等に頼らないコミュニケーション力づくり	A		10	1	0	0	9	0	0	0
	自主的主体的活動	活発な生徒会活動	B	今年度も新型コロナウイルスの影響で様々な大会が中止となったが、日々の活動で生徒たちは生き生きと活動している。生徒数の割に部活動の数が多く、部活動の精選に課題がある。現状を十分に把握し、改善を図る。	8	3	0	0	6	3	0	0
		地域行事への参加やボランティア活動の推進	B		9	2	0	0	7	2	0	0
		部活動の充実・活性化	C		7	4	0	0	6	4	0	0
いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策	A	日頃からの校内巡視により生徒観察を重視している	8	2	1	0	6	2	1	0	
評価者の意見等		・コロナ禍での部活動は課題も多いと思われるが現状を把握し今後も改善を図っていただきたい。・挨拶、身だしなみ等しっかり行っている生徒が多い。・友人との人間関係、クラスのみとまり等、高い評価が出ている。 ・スマホ預かり指導の継続を望みます(本来は、スマホが手元にあっても、それに頼らない人間関係、魅力的な授業、教育活動があるべき) ・コメントにあるようにコロナ禍の中では大変難しさがあったと考えます。特に、いじめ防止については前年度よりアンテナを高くしたことが結果の評価となったのではないのでしょうか。										
進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進	C	講習や週末課題の添削等により継続指導を行う。また、授業を中心とした学習環境の向上を図る。	5	5	1	0	6	4	0	0
		キャリア教育の推進と進路情報提供	B	ホームページにおいてスピード感を持って更新に努める。	8	3	0	0	6	3	0	0
		生徒との進路にかかる個別相談の充実	A	継続して実施する。	9	2	0	0	8	1	0	0
		系統的進路指導の推進	B	進路指導部と学年主任の連携を強化し、「総合的な探究の時間」との関連を図る	7	4	0	0	6	3	0	0
評価者の意見等		・生徒の進路には十分な個別対応が必要と思う。・進路指導の様々な取組は時間も多く必要となり、働き方改革等の課題もあり工夫が必要 ・無難な進路選択や安易な地元志向ではなく、前向きに挑戦しようとする意欲的な生徒の育成を望みます。 ・コロナ禍では生徒の一生を決める環境が難しい。指導する先生方も大変でしたことでしょう。そのためには、幅広い情報力が求められます。 ・個別相談は評価されています。今後お願いします。										
健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実	A	「ハイパーQ-U」の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。	9	2	0	0	8	1	0	0
		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実	A		9	2	0	0	8	1	0	0
		特別支援教育への理解の促進	C		6	4	1	0	6	4	0	0
	美化活動	校舎内外の清掃・環境整備	B	生徒への美化活動の意識付けを図る。	6	5	0	0	5	3	1	0
		防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養	B	異校種の取組を参考によりよい方策のため改善を図る。	6	4	1	0	5	3	1
評価者の意見等		・美化活動や防災意識は大人になる為に重要なことなので、大事なことと思う。・個別面談や教育相談等による生徒観察の充実と情報共有の体制づくりが重要。 ・貴校を訪問する際、いつも校舎内外がきれいに清掃され、整備が行き届いています。・特別支援教育については教職員の共通理解の促進が重要 ・防災意識の高揚には、自然災害の経験が大きく影響され、そのことが醸成することになると考えますが、そのためには、日頃の訓練が企画等から高めていく必要があります。我々の地域もその方向で努力します。										
信頼される学校づくり	地域連携とPTA活動の活性化	PTA便り・学校通信・HP・ライデンスクールなど発信の強化	B	今年度も市内の中学校を訪問したことで中学校との距離を大きく近づけることができた。また、部活動の交流も図ることができ、次年度も継続していきたい。 コロナの影響により地域の会議等に参加することができなかったが、次年度は地域との距離を近づけ、本校を知ってもらうとともに地域で育てる学校への変換を図る。 コロナの影響により、参加頂けなかった行事もあり、次年度は例年通り協力を頂きたい。	5	4	1	0	6	2	0	0
		地元中学校との情報交換、部活動などの交流	D		7	1	2	0	5	3	1	0
		学校行事への参画の推進などPTA活動の活性化	D		7	1	2	0	5	3	1	0
評価者の意見等		・コロナ禍であり、次年度に期待する。・校長先生のご尽力により、中学校と高校の連携がかなり進んできました。「じもと学」に期待しています。 ・コロナ禍ということで、活動の制約はしかたない。・学校からの文書が保護者に確実に届いているというアンケート結果は素晴らしい。・コロナの影響で交流等は困難であったが、「じもと学」での地域交流の促進に期待したい。 ・コメントにもあるとおり、コロナ禍では活動が無理があったと感得ます。しかし、人間形成上広く地域とのつながりは欠かせない面が有、今後とも頑張ってください。 ・PTAや同窓会に一体感を感じない。役員は「やりたい人」ではなく、「やってもらいたい人」に依頼すべき。										
組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進	D	コロナ禍にあり、ICTを活用した授業など新たな事へチャレンジする雰囲気が出てきている。また、新たな科目「じもと学」の準備により、意欲的に活動している教員が増えている。より一層の声をかけを図る。 書類による適切な引き継ぎが重要であるため、各担当者に徹底していく。また、コミュニケーション不足によって情報の共有化がなされない場面が多く、次年度に向けて、情報発信と確認作業の徹底を図る。	7	2	2	0	5	2	3	0
		教職員同士の意思の疎通と組織的運営	D		7	1	3	0	5	3	2	0
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握	D		7	2	2	0	4	3	3	0
		教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進	D		7	2	2	0	4	3	3	0
評価者の意見等		・教職員が学校経営に参画する意識付けが必要と思われる。・毎年度「教職員のコミュニケーション」が低い・何事においても、教職員が主体的に動かなくは生徒も主体的に動く(学ぶ)ことはできないのではないのでしょうか。 ・「じもと学」は学校を上げて教職員のチーム力により成果が上がる科目だと思います。市教委も全面的に応援します。 ・高校では管理職や教員相互の授業観察は毎日行われているのでしょうか(小・中学校では毎日実施していますが・・・) ・単位制への移行や「じもと学」の実施等新しいことへの取組が多く、多忙な毎日と思いますが、全教職員が丸となって、取り組むことが重要かと思ひます。 ・組織運営においては我々地域でも難しいテーマであり、いろいろな考え方があり、一つになることの難しさがありますが、運営に最も大事なことですので知恵を出して頑張ってください。										
資質向上	研修等の充実	校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施	D	コロナ禍にあり、オンライン研修が増えてきているが、積極的に研修する教員が増えている。ただ、研修で得た情報を全教員での共有に至っていない。次年度は情報の共有方法を模索する。 教科内研修・授業見学が容易にできるように時間割等を工夫	8	1	2	0	6	1	3	0
		教職員と保護者との連携	C		7	4	0	0	6	3	1	0
		授業観察や助言による教職員の資質向上	D		8	1	2	0	6	1	3	0
評価者の意見等		・コロナ禍であり、今後の資質向上に期待したい。・コロナの影響で外部への研修の機会も減っていると思いますが、オンライン研修等へも積極的に参加して欲しい。 ・高校では管理職や教員相互の授業観察は毎日行われているのでしょうか(小・中学校では毎日実施していますが・・・) ・前項の組織運営に関連するものと考えますが、必ずテーマに基づき議論を行ってください。 ・生徒に「主体的に学ぶ意識の向上」が課題であるのなら、ぜひ先生方も「主体的に」資質の向上に努めて下さい。										
新型コロナウイルス感染症対策	生徒に対し適切な指導	生徒に対し適切な指導	A	養護教諭を中心に換気の仕方や密を回避する行動の重要性が保健だよりを通して、生徒に周知している。次年度も新型コロナウイルスの感染状況をみながら適切に指導していく。	11	0	0	0	7	0	0	0
		消毒・換気作業などの対策	A		11	0	0	0	7	0	0	0
		職員間での情報共有	A		11	0	0	0	7	0	0	0
評価者の意見等		・感染防止対策がしっかりと実施されている。・コロナ対策については全教職員でご苦労されたことと思ひます。 ・口内感染やクラスターの発生がないことに頭が下がります。教職員の皆さん、お疲れ様です！ ・全体を通してコロナ禍の中ではあるが、教職員の評価は厳しい者があると思うが、全体を通して改善が必要な項目もある。 ・まだまだ続くものと考えます。家庭も含めて対策を。さらに意識は常に持ち、日夜頑張ってください。										